（独立行政法人教職員支援機構委嘱事業）

# 教員の資質向上のための研修プログラム開発支援事業報告書

| | |
|---|---|
| プログラム名 | 理論と実践の往還を実現する研修体制の構築<br>～研修内容を自校に適合して校内研修を実施する研修プログラムの開発～ |
| プログラムの特徴 | 受講者に向けた研修後の追跡調査から「研修は能動的で楽しく知見を得たが、学校でそれをどのように活かしたらよいのか分からない。」「研修をただ聞いただけになっている。」という実態がわかり、研修内容を受講者が自校の実態に適合できない課題を見いだした。そこで教職員支援機構の研修プログラム開発事業に応募し平成28年度で実践編研修を、平成29年度で拡散編研修を開発してきた。<br>ところで、平成29年度教職員支援機構がNITS CAFÉを提案し、上越教育大学は、長野県教育委員会・新潟県教育委員会と連携し実践を試みたところ、受講者同士の情報交換の有効性が明らかになった。本年度の研修プログラムは、長野県総合教育センターで行う講義の時間を短縮し、受講者が講義内容を学校へ適合する方法の情報交換の時間を生み出し、講座のリフレクションを通して受講者の課題を解決する手段を構築し、一連の研修を総合的に実践するプログラムを開発した。 |

平成３１年３月

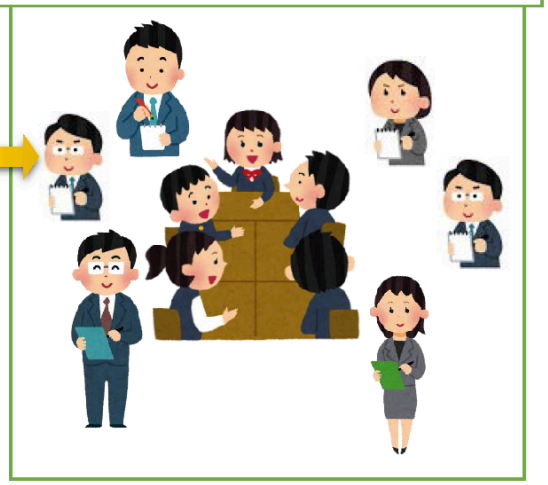
機関名　国立大学法人上越教育大学　　連携先　長野県教育委員会

# 平成30年度　理論と実践の往還を実現する研修体制の構築

長野県総合教育センターでの研修〔理論編〕

受講者が，自校に戻り
演習･実習を担当する研修〔拡散編〕

学校現場に講師等が出向き
学校に合わせて研修〔実践編〕



ﾋﾞﾃﾞｵｺﾝﾃﾝﾂを用い
全国各地で拡散編実施

**平成30年度の研究のポイント**

1　理論編研修の充実
　〇同一テーマで，講義は90分×2講師
　〇講義の学びを自校へ適応させる演習の実施
　　・理論編研修の内容を適応させる方法等をテーマにした，演習（ワークショップ)の実施
2　「実践編研修」と「拡散編研修」を共に実施
3　3年間研究し開発してきた研修体制をまとめる。

1　開発の目的・方法・組織

①　開発の目的

平成26年から上越教育大学教職大学院と長野県教育委員会は、長野県総合教育センターを会場に連携して講座を企画・運営してきた。研修テーマは、長野県教育委員会が、長野県の教育課題から設定し、本教職大学院が、教育課題に即した内容で、理論と実践の往還を受講者に体験させられる講師を選定してきた。両者で連携し、長野県下の教員の資質向上を目指し、教職大学院の学びの具体を図りながら研修を実施しているのが特徴である。

受講者に向けた研修後の追跡調査から「研修は能動的で楽しく知見を得たが、学校でそれをどのように活かしたらよいのか分からない。」「研修をただ聞いただけになっている。」という実態がわかり、研修内容を受講者が自校の実態に適合できない課題を見いだした。そこで教職員支援機構の研修プログラム開発事業に応募し、平成 28 年度「理論と実践の往還を実感するアクティブ・ラーニング型研修体制の構築」で実践編研修を、平成 29 年度「理論と実践の往還を実感する拡散的研修体制の構築」で拡散編研修を開発してきた。

ところで、平成29年度教職員支援機構がNITS CAFÉを提案し、上越教育大学は、長野県教育委員会・新潟県教育委員会と連携し実践を試みたところ、受講者同士の情報交換の有効性が明らかになった。本年度の研修プログラムは、長野県総合教育センターで行う講義の時間を短縮し、受講者が講義内容を学校へ適合する方法の情報交換の時間を生み出すことを考えた。過去4年間にわたる長野県教育委員会との連携講座を舞台に、受講者が研修内容を自校に適合できる研修プログラムを開発することを目的としている。

②　開発の方法

３つの研修方法を実施しそれぞれについて質問紙調査により検証する。

●理論編研修：長野県の教育的課題を長野県教育委員会が決めだし、対応できる講師を上越教育大学教職大学院が選定し、理論を中心とした講座を全５日行う。また、受講者の課題である、講座を受けた後に学校事情に講座内容を適合するため、受講者と講師、本大学アドバイザー、教職大学院生と意見交換の場を組織し「リフレクションを通して、研修内容を明日の学校に活かそう」を演習課題としてワールドカフェ形式で演習を行う。

開催時期、テーマ、講師

6月22日：学力向上のための授業づくり・学級づくり、赤坂・大島
7月27日：ICTが苦手な人のための初歩の初歩講座、水落・榊原
8月　7日：幼稚園・保育園・小学校・中学校・高等学校の連携教育、木村・片桐
8月27日：主体的・対話的で深い学びの授業実践、松沢・西川
9月20日：特別の教科道徳の授業づくり、早川・小宮

●実践編研修：本教職大学院の講師や教職大学院院生が、理論編研修の受講者の学校等へ出向き、学校の事情をリサーチした上での講演を行ったり、児童・生徒を対象にした講演や模擬授業を行ったりする研修を実施する。対象者は、理論編研修の受講者や開催校の教職員、近隣の小学校の希望者とする。さらに、この研修を学校で行うことにより、児童・生徒・保護者を対象者としての研修を行うことも可能である。この実践編研修を全国に広げることを目指し、他県からの要望にも応える。

●拡散編研修：理論編研修の理論の中核となる部分を抜き出し 15 分程度の映像に編集して、DVD 等のコンテンツを受講者全員へ配付やインターネット配信を行う。さまざまな場所で、この研修を実施可能とすることは、理論編研修に参加できない教職員への研修の機会となる。また、希望する教員団体や全国の学校にも配布・配信したり、情報を開示したりすることで、より広い範囲の多くの教職員へ理論と実践の往還した内容を届けることを目標とする。

③　開発組織

| No | 所属・職名 | 氏　名 | 担当・役割 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 長野県総合教育センター・所長 | 西條　浩章 | 教職大学院との連携担当 | 協議会副議長 |
| 2 | 同・指導主事 | 塩原　慎一 | 教職大学院との連携担当 | |
| 3 | 上越教育大学大学院学校教育研究科　・　教授 | 廣瀬　裕一 | 開発プログラムの総括担当 | 協議会議長 |
| 4 | 同　・　教授 | 西川　純 | 研修講座の企画、運営担当 | |
| 5 | 同　・　教授 | 桐生　徹 | 長野県教育委員会との連絡担当 | |
| 6 | 同　・　教授 | 水落　芳明 | 理論編研修の運営担当 | |
| 7 | 同　・　准教授 | 片桐　史裕 | 実践編研修の運営担当 | |
| 8 | 同　・　准教授 | 阿部　隆幸 | 拡散編研修の運営担当 | |
| 9 | 同　・　准教授 | 大島　崇行 | 理論編研修の演習・映像等担当 | |
| 10 | 同　・　准教授 | 榊原　範久 | 理論編研修の演習・映像等担当 | |

## 2　開発の実際とその成果

### ①　理論編研修

**○研修の背景やねらい**

理論編研修とは、長野県総合教育センターにおいて実施する講座の名称である。大学教員が、同センターへ出向き、受講者の教職員へ理論的な背景を含めた内容で講座を運営する。講座テーマのねらいは、長野県教育委員会が情報収集した喫緊な課題を大学教員の専門性を元に講師を選定し、５項目 10 講座を決めだした。また、午前、午後の講座を受けた上でのリフレクションの時間を設定し、担当講師がファシリテーターとして受講者の振り返りと、講座を受けて勤務校でどのようなことを実施可能であるのかを話し合うための【演習】を 14：40～15：50 設けた(次表の□ 枠で囲んでいる者が【演習】を実施した)。

1 研修項目で、２名の講師による理論編研修を各１講座、演習を 1 講座実施し、１日１研修項目で計 3 講座を実施している。

**○対象、人数、期間、会場、日程講師**

| 研修項目 | 対象 | 参加人数 | 期間 | 会場 | 日程 | 講師 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1　学力向上のための授業づくり・学級づくり | 小・中・高・特等の教員 | 31 | 6 月 22 日(金) | 長野県総合教育センター | 10:00～11:30 | 大島崇行 |
| | | 31 | | | 12:30～14:00 | 赤坂真二 |
| | | 31 | | | 14:40～15:50 | 桐生徹、榊原範久 |
| 2　ICT が苦手な人のための初歩の初歩講座 | | 41 | 7 月 27 日(金) | | 10:00～11:30 | 榊原範久 |
| | | 41 | | | 12:30～14:00 | 水落芳明 |
| | | 41 | | | 14:40～15:50 | 大島崇行 |
| 3　幼・保・小・中・高の連携教育 | | 9 | 8 月 7 日(火) | | 10:00～11:30 | 木村吉彦 |
| | | 9 | | | 12:30～14:00 | 片桐史裕 |
| | | 9 | | | 14:40～15:50 | 大島崇行 |
| 4　主体的・対話的で深い学びの授業実践 | | 40 | 8 月 27 日(月) | | 10:00～11:30 | 松沢要一 |
| | | 40 | | | 12:30～14:00 | 西川純 |
| | | 40 | | | 14:40～15:50 | 大島崇行 |
| 5　特別の教科道徳の授業づく | | 36 | 9 月 20 日 | | 10:00～11:30 | 早川裕隆 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| り | | 36 | （木） | | 12:30～14:00 | 小宮健 |
| | | 36 | | | 14:40～15:50 | 榊原範久 |
| 全参加者数 | | 471 | | | | |

**○各研修項目の配置の考え方（何をどの程度配置すべきと考えたか）**

研修項目は、長野県教育委員会が、前年度において県下の教職員の研修要望や喫緊の課題を洗い出したものである。教科経営として新学習指導要領による実施上の課題は最重要課題と考え２日で４講座の実施とした。学級経営を習得する機会が大学時代にないという点と学力向上との相関を聞く機会がないという要望から１日で２講座、義務教育学校や施設一体型小中連携学校、中学校区での小中連携などが実施されていることから１日で２講座、ICT 教育に特に未だに苦手意識をもっている教員がいることから１日で２講座となっている。

全ての講座の終わりには、自らの講座内容を省察し、勤務校への応用を話し合う【演習】を入れることで、講座内容を聞いただけに終わらせないようにすることをねらい配置した。

**○各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等）、時間数、使用教材、進め方**

| 研修項目 | 時間数 | 目　　的 | 内容、形態、使用教材、進め方等 |
|---|---|---|---|
| 1 学力向上のための授業づくり・学級づくり | 1.5 | 学力向上のための授業デザインと分析を紹介し受講者同士で考え合う。 | ・内容：至る所で学力低下が叫ばれ、教師は学力向上への取り組みが必須とされている。しかし、「学力」とは何か？ノンストップで駆け巡る学校現場。ちょっと立ち止まり「学力」について、そしてそのための取組について考えあった。<br>・使用教材：なし<br>・進め方の留意事項：なし |
| | 1.5 | 学級経営を充実させるためにも、指導力のある教師が知っていることを理解し合い考え合う。 | ・内容：新学習指導要領では、学級経営の充実を求めている。主体的・対話的で深い学びの実現のためには、学習集団の機能向上が望まれる。しかし、学級経営については学ぶ機会も少なく勘や経験に頼って実践されているのが実情であることから、指導力の高い先生たちは何をしているのか、紹介し考えあった。<br>・使用教材：なし<br>・進め方の留意事項：なし |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 2<br>ICTが苦手な人のための初歩の初歩講座 | 1.5 | 明日から使える簡単ICT活用術について演習を交えて体験する。 | ・内容：学校にICT機器は導入されるけれど、なんとなく手が出ない。使い方は分かるけど、どの場面で使うと効果的なのか、いまいちピンとこない…。そんな悩みを解決し、ICT機器の教室環境整備や、ICT機器のちょっと使いで授業効率化と子どもの学習の活性化の方法を提案し実際に体験をした。<br>・使用教材：なし<br>・進め方の留意事項：なし |
| | 1.5 | 初めての先生向きのiPad活用法を体験する。 | ・内容：iPadを授業で使ってみませんか？をキーフレーズに、難しい知識や初めての方でもできるようになるための講座として実施した。iPad等を用意し、使ってみようと思う気持ちを大切にiPadの活用を体験した。<br>・使用教材：なし<br>・進め方の留意事項：なし |
| 3<br>幼・保・小・中・高の連携教育 | 1.5 | 幼保小連携教育に基づく接続期カリキュラムについて、茅野市の対応を元に考え合う。 | ・内容：長野県茅野市の実践例は、幼保小連携教育をとても重視し、小学校区内における小学校と幼稚園・保育園の先生方同士の打ち合わせ活動を基に、接続期カリキュラム（＝アプローチ＆スタートカリキュラム）の実現を果たしている状況を確認し、考えあった。<br>・使用教材：なし<br>・進め方の留意事項：なし |
| | 1.5 | 高等学校卒業後の姿を見すえた中高接続カリキュラム作成の考え方を会得する。 | ・内容：今から30年後、目の前の子どもたちは地域や会社や家庭を責任持って担っている年代となる。30年後の日本や世界はどんな状況か？そして目の前の子どもたちはその社会にどのように関わっていくのか。子どもの将来を見すえたカリキュラムを作ることを考えあった。<br>・使用教材：なし<br>・進め方の留意事項：なし |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 4<br>主体的・対話的で深い学びの授業実践 | 1.5 | 深い学びを実現する算数・数学の教材アレンジを実施する。 | ・内容：算数・数学ワーキンググループは、学習過程の中に「疑問や問いの発生」を授業の前半と後半に位置付けている。このことを実現するために、教材をアレンジする視点から具体的な教材とそのアレンジ方法について考え、演習を交えて理解を深めあった。<br>・実施形態：講義と演習<br>・使用教材：なし<br>・進め方の留意事項：なし |
| | 1.5 | さまざまな「主体的・対話的で深い学びの授業実践」を考える。 | ・内容：「主体的・対話的で深い学びの授業実践」とは何でしょうか？これを理解するには、子ども達の生きる50年、60年先の日本を理解しなければなりません。とても厳しい時代です。これを乗り越えるために二つの道があります。エリートに頼る未来、みんなで築く未来。そして、何も考えない未来を皆で語り合った。<br>・実施形態：講義と演習<br>・使用教材：なし<br>・進め方の留意事項：なし |
| 5特別の教科道徳の授業づくり | 1.5 | 教科化で変わったこと・変わらないことを「考える・議論する」ことを中心に見いだす。 | ・内容：道徳科では、「考える道徳・議論する道徳」への質的な転換が求められている。道徳科は今までの道徳の時間と何が同じで何が違うのか。道徳科の目標を基にしながら、その違いや、道徳科で目指すべきものについて理解を深め合った。<br>・使用教材：なし<br>・進め方の留意事項：なし |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 1.5 | 教科化で変わったこと・変わらないことを、授業づくりで大切なことを中心に見いだす。 | ・内容：今までの道徳の時間の批判から鑑み、主題やねらいの設定が不十分なところに大きな問題があると考察し<br>①具体的な主題やねらいの立て方について理解する<br>②具体的なねらいからどのように子どもの成長や学習の状況を見取るのか、その内容や方法について評価の観点から理解する<br>③指導方法として陥りやすい誤解を解き、道徳科として効果的な指導方法の在り方を理解する<br>の3点を中心に理解を深め合った。<br>・使用教材：なし<br>・進め方の留意事項：なし |

○成果と課題

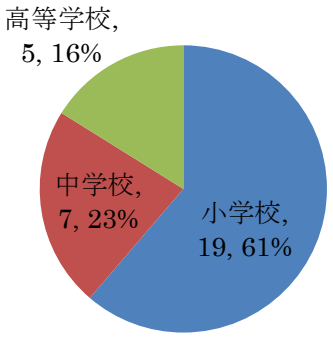
①　理論編研修の評価方法

1 日の講座終了後にアンケートを実施し、それをまとめた。

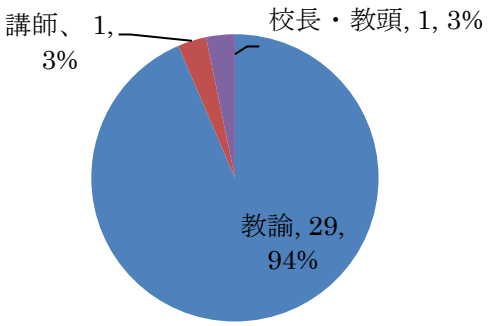
**第 1 回　6 月 22 日（金）**

| 上越教育大学教職大学院　連携講座 | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講座番号･講座名 | | | | | | | | | | | 実施日 | ねらい，連絡等 |
| 学級づくり | 3-8-01-01<br>学力向上のための授業づくり･学級づくり<br>～協同性を高める学級を目指そう～ | | | | | | | | | | 6月22日（金） | 講義　「学力向上のための授業デザインと分析」<br>講師　上越教育大学教職大学院　准教授　大島　崇行<br>至る所で学力低下が叫ばれ，私たち教師は学力向上への取組が必須とされています。しかし，「学力」とは何でしょうか？ノンストップで駆け巡る学校現場。ここでちょっと立ち止まり「学力」と，学力向上の取組について考えます。<br>講義　「学級経営の充実～指導力のある教師が知っていること～」<br>講師　上越教育大学教職大学院　教授　赤坂　真二<br>新学習指導要領では，学級経営の充実を求めています。主体的・対話的で深い学びの実現のためには，学習集団の機能向上が望まれます。しかし，学級経営については学ぶ機会も少なく勘や経験に頼って実践されているのが実情です。指導力の高い先生たちは何をしているのか，紹介します。<br>演習　「リフレクションを通して，研修内容を明日の学校に活かそう」<br>講師　上越教育大学大学院　アドバイザー |
| | 地域社会と連携･協働 | 目標実現に向け，柔軟に対応 | 「教育のプロ」としての高度な知識や技能 | | | | | | | | | |
| | | | 学習指導 | 生徒指導 | 現代的な諸課題 | | | | | | | |
| | | | | E4 | E5 | | | | | | | |
| | 基礎形成 | 伸長 | 充実 | 次世代育成 | 希望 | 幼 | 小 | 中 | 高 | 特 | 専 | 義初 | 高初 | 義キⅡ | 高キⅡ | |
| | [redacted] | | | | ○ | 20名 | | | | | | | | ○ | ○ | ・持ち物　なし |

学校種




受講者の職能




**受講者の感想**

**講義「学力向上のための授業デザインと分析」准教授　大島崇行**

・15 年、20 年後を予測しながら求められる学力について近くの先生と情報が共有できてよい機会でした。

・これから求められる授業について、今後の社会、子どもにつけさせたい力など丁寧に考えながら分析できました。

・ファシリテーターとして授業をイメージすることを通して、授業改善の一歩が踏み出せるような気がした。

・学術的なデータも含めながら授業の具体についてお話しいただけたのがよかった。

・学力とは何か、ものすごく考えさせられました。

・学力について考え、実情を知り子どもたちがこれから必要とされる力を改めて考えられました。

・自分は日本の将来について考えながら授業をしていくことが薄かったように思った。子どもが一コマで何ができるようになったかを大切にしたい。

・授業の中での目標を踏まえたうえでそのための方法を子どもたちと考え主体的・対話的で深い学びができるようにしたいと思いました。

・評価の姿を事前に伝えると子どももそれに向かって主体的に動いていくという部分、実践していきたい。

・目標と学習と評価の一体化を意識して授業をしていきたいと思います。

・目標は子供たちと共有するようにしていますが評価がなかなかできないと感じています。また 15 年後の社会を意識して今何を教えたいかを考えたいです。

**講義「学級経営の充実～指導力のある教師の知っていること～」教授　赤坂真二**

・自分の学級経営を振り返って自分の指導は温かいか考えてみたいと思います。子どもたちとの向き合い方を改善してみたいと思います。
・ルールの必要性や友とのかかわり等自分の中で流している部分があるものもあり、もう一度徹底していこうと考える時間になった。
・学級経営においてたくさんの課題や見直しに気づかされました。
・学級経営の重要性を改めて感じることができた。
・学級経営の大切さを考えさせられ、これからの自分に必要な事を考え行動に移したいと思います。
・学力向上には学級経営が大切だと改めて思いました。授業をしても学級経営ができると思うので考えてゆきたいです。
・教師目線のルールが多いことに気づいた。
・担任を持って 2 年半、勘に頼ってやることが多かったなと反省しました。このような研修を受け、経営の理論、テクニックを吸収したいです。
・漠然と捉えていた学級経営が大変重要であることを再確認できた。
・力強いお話、引き込まれました。まずもう一度子ども一人ひとりと自分の関係を見返してみようと思いました。
・力強い話しの中に、教師としてどんな学級経営を進めるかというヒントが数多くあった。校内に広げていきたい。

**演習「リフレクションを通して、研修内容を明日の学校に活かそう」**

・1 日の学びを振り返りどう実践に生かすか考えることが出来ました。
・アウトプットとインプットをしたことでさらに理解が深まりました。
・ルールってなんだ？どうやって決めるの？という深い話をグループの先生方と共有することができました。自分の学級経営の弱い部分も見直すことができました。
・一方的に聞いていただけでなく具体的な実践につなげていくための時間となり大変有意義であった。
・学びの振り返りと、具体的な動き方について考えることができた。
・隙間時間のルールや慣例化していたルールも意味づけることで、落ち着いた学級になりそうだという話があり、頑張ってみようと思った。
・講義内容を深めることができました。
・今日一日学びを振り返る中でさらに学びが深まった。
・自分がやっていたことが明確になりこれでよかったと思う部分が多くありました。今後に生かしたいと思います。
・様々な考え方に触れられ、自分の考え方が広まりました。

**講座のねらいの達成度**

午前中の大島准教授の講義は、学習者主体の授業デザインをするにはどうしたらよいかという点に主眼が置かれていた。概観すると、「指導と評価の一体化」というより「目標と学習と評価の一体化」をすることで子どもたちが主体的に学ぶ授業（一人ひとりみんなが目標を達成することを目指し、それぞれが最適だと思う方法で協力し合い学び合う授業）ができると説いた。大島准教授の講義は、「指導」という教師主導の側面が強いものから、ルーブリックを共有し、子どもたちが何をすればよいのかを明確にするという事が、主体的な学びにつながるという趣旨であったと感じられた。

赤坂教授は「学級経営に関して教師は無免許である」点を課題として挙げ、良い学級は偶然にできず、計画されるものであるとした。そして成果を上げる教師が知っていることとして「教師の役割」「クラスづくりの手順」「教師の責任」を挙げ、学級経営において横藤の織物モデルを用い「あたたかくルールを設定する」事の重要性を説いた。また、子どもにとって教室は異次元であり、戸惑って当たり前であり、失敗を叱られるとチャレンジしなくなる点を指摘し、学級経営で成果を上げる教師には計画があり、従うべきルーチンがあるとした。

二人の講義を通じて、教科の学びと学級経営の関係の重要さを改めて認識できたものと考える。

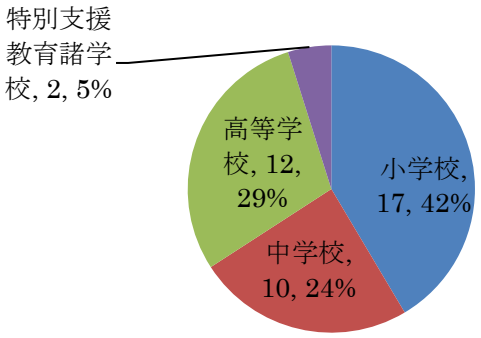
今回の講座の特徴として、リフレクションの時間が 90 分以上取られている点がある。この振り返りの時間が講義を実践へとつなげるポイントであったと考えられる。他講座でも導入の検討の余地があると思われる。

以上のことから、講座のねらいは概ね達成できていると判断する。

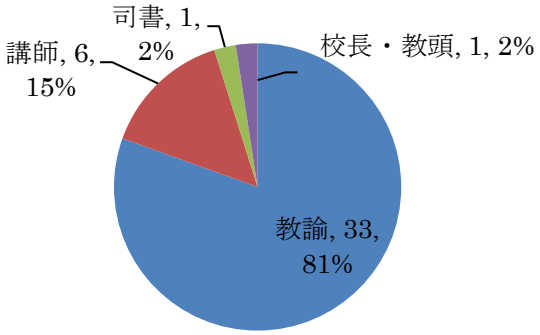
## 第２回　７月27日（金）

| 上越教育大学教職大学院　連携講座 | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講座番号･講座名 | | | | | | | 実施日 | ねらい，連絡等 |
| ＩＣＴ活用 | ICT<br>3-8-01-02<br>ICTが苦手な人のための初歩の初歩講座<br>～iPad1台で授業が変わる～ | | | | | | 7月27日（金） | 講義　「明日から使える簡単ICT活用術」<br>講師　上越教育大学教職大学院　准教授　榊原　範久<br>学校にICT機器は導入されるけれど，なんとなく手が出ない。使い方は分かるけど，どの場面で使うと効果的なのか，いまいちピンとこない…。そんな悩みを解決し，ICT機器の教室環境整備や，ICT機器のちょっと使いで授業の効率化を図り，子どもの学習の活性化の方法を提案します。<br>講義　「初めての先生向きのiPad活用法」<br>講師　上越教育大学教職大学院　教授　水落　芳明<br>iPadを授業で使ってみませんか？難しい知識は必要ありません。初めての方でもできるようになるための講座です。<br>iPad等，ご用意いただく必要はありません。この際，使ってみようと思う気持ちだけをもってご参加ください。<br>演習　「リフレクションを通して，研修内容を明日の学校に活かそう」<br>講師　上越教育大学大学院　アドバイザー |
| | 地域社会と連携･協働 | 目標実現に向け，柔軟に対応 | 「教育のプロ」としての高度な知識や技能 | | | | | |
| | | | 学習指導 | 生徒指導 | 現代的な諸課題 | | | |
| | | | E1 E2 | | E6 | | | |
| | 基礎形成　伸長　充実　次世代育成 | | 希望 | 幼 小 中 高 特 専 | 義初 | 高初 | 義キⅡ | 高キⅡ |
| | [redacted] | | ○ | 20名 | | | | ・持ち物　なし |

学校種




受講者の職能




受講者の感想

**講義「明日から使える簡単 ICT 活用術」准教授　榊原範久**

・簡単かつ基本的な内容でありがたかった。
・授業において効果的に活用できることが分かりありがたかった。
・使って当たり前、わかっていて当たり前という雰囲気がある中で、初歩の内容を知ることができてよかったです。
・教室環境を整えるうえでのヒントをもらった。
・実物投影機だけでなく、タブレットやスマホからもスクリーンに映す方法を理解し、実践練習できた。
・触ってみれば書画カメラは出来そうな気がしました。やってみることが第一歩でした。ほかのグループのやり方を見せて頂いたのもありがたいです。
・教室に設備はあるので、実際にやってみたいです。
・実際に、いろいろな教科書を検討したのは良かったと思う。
・実物投影機で電子黒板の操作を体験できてよかった。
・実物投影機で写したものをカメラで撮れることを知ってよかったです。
・これからの子どもたちに保障していかなければならないことに共感しました。
・機器の名前と機能を、例示以外にも知り使える環境を整えることが必要だと分かりました。

**講義「初めての先生向きのｉＰａｄ活用法」教授　水落芳明**

・実際に触りながら体験させていただけて楽しく学べた。
・初めての操作でしたが、楽しく扱う事が出来た。子どもたちもきっと夢中になるだろうと思います。使えるかなと少し思えるようになりました。
・はじめてとあるが意外と活用したことのない機能もあり、またその機能を授業につなげるヒントをもらった。
・iPad を使って写真しりとりやフォト５７５をやってゲーム化することで、夢中になれることが分かった。
・子どもたちが普段から触っているので、アイデアをもとに教材化したいです。

・写真しりとり、早速実践してみたいです。
・実際に触れたこと、機能面を写真に絞って扱ったことで焦点化した。
・今まで知らなかった操作を知ることができた。
・写真しりとりやフォト５７５が楽しかったです。
・丁寧にかみ砕いて教えていただきました。
・写真編集のやり方がいろいろ分かってよかったです。

**演習「リフレクションを通して、研修内容を明日の学校に活かそう」**

・小中高様々な校種の方の、率直な意見が聞けありがたかった。
・情報交換ができとても良かった。
・自分にはなかった視点（特に高校）を学べたのが大変刺激になった。
・これは使えそうという広がりができた。
・出来そうなところからやってみようと勇気が出ました。
・グループの人数以上の情報が集まり、自分と同じことで困ったりしている人がいたり、自信が持てたりできました。
・格差は仕方ないですが、皆さん前向きでした。
・今日１日をまとめることができた。
・他の先生方の考えを聞かせていただけて、ＩＣＴを生かす参考になった。悩みは同じだと分かって安心した。
・いろいろな方の意見が聞けて良かった。リフレクションのやり方が勉強になった。ワールドカフェがよかった。
・よさの実感というキーワードをグループのディスカッションでもらいました。
・実際に学校で生かすアイデアをたくさんもらえました。

**講座のねらいの達成度**

午前中の榊原准教授の講義は「なぜ ICT？」という部分について OECD や文部科学省の資料から説明をするとともにデジタル機器や接続ケーブルの名称など覚えなければ話が先に進まない部分にも丁寧に解説いただいた。そのうえで、3-5 名のグループごとに実物投影機を操作し、教科書を投影してみるという演習をおこなった。受講者は実物投影機を触ったことがない方がほとんどであったがちょっと触ってみると「ああ、こうすればいいのか」という事がわかり「これ、こうやって使えばいいんじゃないか」などのコメントも出てきた。

午後の水落教授は ICT の可能性として「Teaching から Learning へ」「Society5.0」などとの関係を挙げ、これから先、AI の進化はあるが AI が苦手にしていることは「つなげる」「見立てる」「例える」事であるとした。そのような最新情報を概説したのち iPad の基本操作と写真機能のみを使って操作をしてみた。タッチパネルを操作したことがない方も多くみられたが、しばらくすると慣れてきた。「写真しりとり」「フォト五七五」など、機器操作の習熟に向いた演習を取り入れていただき「初歩の初歩講座」という名称としての内容は適切であったと判断する。

今回の講座の特徴として、リフレクションの時間が 90 分以上取られている点がある。受講者は、リフレクションする中で自分の考えを整理し、学校へ持ち帰りどうするかをしっかりと整理するとともに活発な意見交換ができたようである。

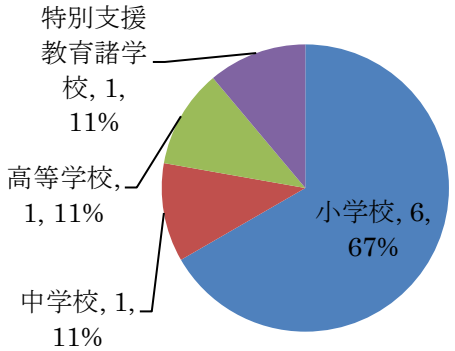
以上のことから、講座のねらいは概ね達成できていると判断する。

他方、本講座は、学校に機材がないと実践できないという側面も持っている。この点は、我々では解決できないが、受講者が本講座の内容を持ち帰ることで、まずは実物投影機を使ってみていただくことから始めていただき、他の使っていない先生方にも、ICT が波及することを期待したい。

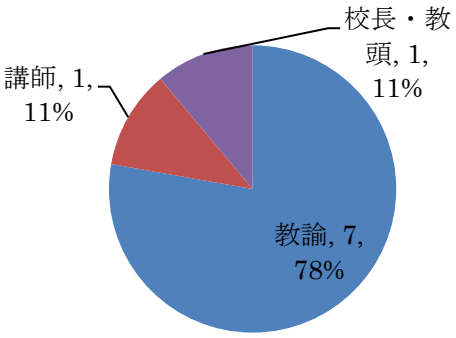
## 第３回　８月 ７日（火）

| 上越教育大学教職大学院　連携講座 | | | |
|---|---|---|---|
| 講座番号･講座名 | | 実施日 | ねらい，連絡等 |
| 注目動向 | 3-8-01-03<br>幼稚園･保育園･小学校･中学校･高等学校の連携教育<br>～接続を意識したカリキュラムで思考力を養う～<br>地域社会と連携･協働 / 目標実現に向け，柔軟に対応 / 「教育のプロ」としての高度な知識や技能：学習指導 / 生徒指導 / 現代的な諸課題<br>D4<br>基礎形成　伸長　充実　次世代育成 | 8月　7日（火） | 講義　「幼保小連携教育に基づく接続期カリキュラムー茅野市対応中心ー」<br>講師　上越教育大学教職大学院　教授　木村　吉彦<br>幼稚園における教育要領の実施に合わせて，小学校と幼稚園・保育園の連携教育の意義付けと重要性を学びます。<br>小学校の学区内における小学校と幼稚園・保育園の先生方同士の打ち合わせ活動を基にした，接続期カリキュラム（＝アプローチ＆スタートカリキュラム）の長野県茅野市の実践を紹介します。<br>講義　「高等学校卒業後の姿を見据えた中高接続カリキュラム作成の考え方」<br>講師　上越教育大学教職大学院　准教授　片桐　史裕<br>今から30年後，目の前の子どもたちは地域や会社や家庭を責任持って担っている年代です。30年後の日本や世界はどんな状況でしょうか？そして目の前の子どもたちはその社会にどのように関わっていってほしいですか？子どもの将来を見すえたカリキュラムの作成について学びます。<br>演習　「リフレクションを通して，研修内容を明日の学校に活かそう」<br>講師　上越教育大学大学院　アドバイザー |
| | 希望：○　幼 小 中 高 特 専：20名　義初　高初　義キⅡ　高キⅡ | | ・持ち物　なし |

学校種




受講者の職能




**受講者の感想**

**講義「幼保小連携教育に基づく接続型カリキュラムー茅野市対応中心ー」教授　木村吉彦**

・スタートカリキュラムの意義と教師の子どもとのかかわりが分かりました。さらに学んでいきます。
・生活科の目標が分かりました。
・幼児教育と小学校教育について、遊びに係ってそのつながりが自分なりに理解できたように思う。スタートカリキュラムは耳にしたことがあったが、アプローチカリキュラムについて学べた。
・幼保と小学校がスタートカリキュラムによってつながっている様子がよく分かった。自身の学校で行われているかどうかはわからないが、今後もその視点で見ていきたい。
・スタートカリキュラムの実際と課題について知ることができた。
・連携する保育園の先生と話をして、共通の意識で子どもたちを指導していきたい。
・内なる課題への対応力を身に付けていくにもスタートカリキュラムの大切さを改めて実感した。校種が上がるにつれてその学びをどうつなげていくのかそこを大切にした接続の重要性を感じました。
・大変分かりやすく説明いただき、参考になった。
・金沢小の実践画像をもっと見たかった。先生の話がとても分かりやすく、心に落ちた。

**講義「高等学校卒業後を見据えた中高接続カリキュラムの考え方」准教授　片桐史裕**

・具体的に授業を考えることができました。中学や高校を知るとともに、未来にも目を向けていきたいです。
・小学校段階でも将来を考えていく必要があることが分かりました。
・今の子どもが大人になった時のことを考え、教育現場でも実践していく必要があると思う。ただなかなか我々も先を考えるのは難しい。
・中学から高校へのつながり、高校でのカリキュラムについて学べたが、では小学校ではどうしたらよいのか、小→中のつながりはどうなのかもわかりやすかった。

・自分のころと高校は変わっていることを知った。
・社会の変化を意識して授業づくりをしていきたい。
・社会に出ていったときにどのような事が待ち受けていて、それを乗り越えていこうとできるのか、そこを考えながら授業づくりをおこなっていく大切さを学びました。
・中高連携の重要性を再認識できた。
・テンポよくわかりやすい内容だった。グループ討論でいろいろな意見が聞けた。

**演習「リフレクションを通して、研修内容を明日の学校に活かそう」**

・他のグループと話すたびに内容を振り返ることができ、課題が明確になった。
・自分では気づかないことも話すことで気づき、振り返ることができました。
・自ら率先して研修を仕組む。そんな意欲を持つことができた。頑張ります。
・リフレクションの時間が短かった。もっと講義を伸ばして確かな力をつけてからリフレクションに臨みたかった。
・具体的に自分がすぐにできそうなことを書き出せた。すぐにできないかもしれないことも大事にする気持ちは持っていたい。
・考えを伝えあう場として、今日の研修が深まった。
・ワールドカフェ方式ははじめてであったのですが、多くの先生と話ができ、とても勉強になりました。
・講義内容がより鮮明で広がりあるものになった。
・グループ討論の場で意見を伝える力がついた。

**講座のねらいの達成度**

午前中の木村教授の講義は、スタートカリキュラムやアプローチカリキュラムを中心に、幼稚園や保育園での遊びから生まれる課題解決力を小学校の生活科につなげることの意義についてお話しいただいた。スタートカリキュラムにより、遊び中心の生活から（教科）学習中心の生活へとスムーズに移行できる。幼稚園・保育園での遊びでは、内なる課題に対応することを学び、小学校以降の学習での外からの課題への対応力につながることを丁寧に説明していただき、多くの受講者は、生活科の目標とスタートカリキュラムや幼稚園・保育園における遊びの意義を深く理解していた。

午後の片桐准教授は、新学習指導要領がそのような背景をもとに作成され、今後の学校はそのような役割を果たしていかなければならないかをお話しいただいた。さらに、高校のカリキュラムを通して、中学校での進路指導についての示唆をしていただいた。そして、後半では、「子どもたちの将来のための授業とは？」として、将来子どもたちが直面する諸課題を解決するための力をつけるためには、どのような授業をしたらよいのかを、受講者の教科を通して考えるワークをしていただいた。受講者からは、「社会の変化と意識して授業づくりをしていきたい」など、講義内容の理解を深め、２学期からの授業に活かしたいとのふりかえりがあった。

お二人の講義を通じて、校種間の連携の重要さを改めて認識できたのではないかと思われる。

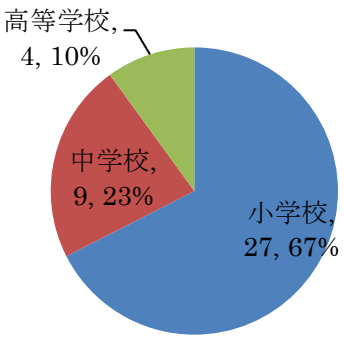
リフレクションの時間がしっかり取られることで、講義内容が自分のものになっていると感じている受講者が多かったように思える。リフレクションの時間をとることの重要さがわかり、他講座でも活用できるのではと思った。

以上のことから、講座のねらいは概ね達成できていると判断する。

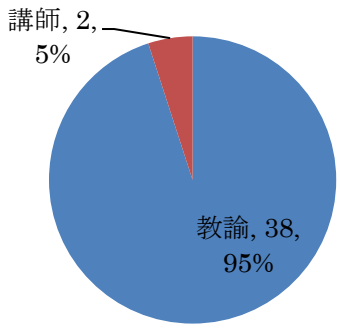
## 第４回　８月27日（月）

| 上越教育大学教職大学院　連携講座 | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講座番号･講座名 | | | | | | | | 実施日 | | ねらい，連絡等 |
| 授業改善 | 3-8-01-04<br>主体的･対話的で深い学びの授業実践<br>～未来と深い学び～ | | | | | | | 8月27日（月） | | 講義　「深い学びを実現する算数・数学の教材アレンジ」<br>講師　上越教育大学教職大学院　教授　松沢　要一<br>普段の授業で，子供たちの中に「問い」が生まれているでしょうか。深い学びを実現するためには，教科書教材をアレンジし，「問い」が発生するような仕掛けが必要です。教科書教材のどの部分をどのようにアレンジしたらよいかについて，具体的に考えていきます。<br>講義　「さまざまな「主体的・対話的で深い学びの授業実践」」<br>講師　上越教育大学教職大学院　教授　西川　純<br>「主体的・対話的で深い学びの授業実践」とは何かを理解するには，子ども達の生きる50年先の日本がとても厳しい時代になることを予測してみることから始まります。とても厳しい時代です。これを乗り越えるためには，二つの道があります。エリートに頼る未来，みんなで築く未来について授業実践から学びます。<br>演習　「リフレクションを通して，研修内容を明日の学校に活かそう」<br>講師　上越教育大学大学院　アドバイザー |
| | 地域社会と連携･協働 | 目標実現に向け，柔軟に対応 | 「教育のプロ」としての高度な知識や技能 | | | | | | | |
| | | | 学習指導 | 生徒指導 | 現代的な諸課題 | | | | | |
| | | | E1 E2 E3 | | | | | | | |
| | 基礎形成 | 伸長 | 充実 | 次世代育成 | 希望 | 幼 小 中 高 特 専 | 義初 | 高初 | 義キⅡ | 高キⅡ |
| | [redacted] | | | | ○ | 20名 | | | | ・持ち物　なし |

学校種




受講者の職能




**受講者の感想**

**「深い学びを実現する算数・数学の教材アレンジ」教授　松沢要一**

- 明日使えるものばかりで教材研究をする意欲がわいてきた。
- 子どもたちから生まれる問いを大切にすること、それを支えるものが深い教材研究だと感じた。
- 実践事例を挙げていただいてとても分かりやすかった。
- 疑問や問いを生む仕掛けのポイントを教えていただいたのですが、まずは決まりを発見できる、バランスが悪い部分がある、そんな教材アレンジを考えていきたいと思います。
- 「問い」「疑問」が生まれる工夫をもっと考えていく必要があると思った。
- 教科書教材をアレンジし、子どもが「なぜ」「どうして」と思えるような算数の授業を行ってみたいと感じた。
- 計算でも子どもに「なぜ」と思える瞬間があることがよく分かりました。
- 6 つのしかけが、とりかかりやすい手立てとしてありがたかった。
- ぜひ明日から担当する学年の単元で考えてみたい。
- 教材のアレンジはなかなかハードルが高いです。教科書をよく読みこんでできることを考えていきたい。
- これまで教科書の問題をそのまま扱う事が多かったのですが、少し工夫することで考える楽しさや力がつくと思いました。

**「さまざまな「主体的・対話的で深い学びの授業実践」」教授　西川　純**

- 子どもたちの未来を考える西川先生の話が印象的だった。
- 子どもが今後生きていく社会と子どもたちが置かれる状況を知ることで、その社会で生きていくためのいますべき教育を考えることができた。
- 日本のこれからの姿、課題が見えてきた気がします。自分に何ができるのかまだわかりませんが。

・今教えている子どもたちが、将来どのような社会に生きていくのか教えていただきました。今の子どもたちにできることは何か考えていきたいです。
・子どもたちにどのような力をつけていく必要があるかを考えて授業したい。
・『学び合い』をもっと詳しく知りたかったです。
・これからの子どもたちがむかえる社会について知る中で自分にできることを考えるきっかけになった。
・子どもの未来を見据えて指導の大切さを感じた。
・これからの子どもたちにどのような力が必要か・・・という事がなんとなくわかってきました。実際、どうしていけばいいのかという事ももっと知りたくなりました。
・これからの社会を考えずに授業をしていてはいけないと思いました。まず自身が学ばなければいけないと思いました。

**演習「リフレクションを通して、研修内容を明日の学校に活かそう」**

・今日の講義が振り返られてまとめられた。
・他の先生の思いを聞き、それに関する自分の思いを話すことで自分の考えが整理され、新しい気付きをもらった。
・説明するという子どもたちに求めている事なので、教師が実践することはよいことだと思った。
・多くの先生方の意見を聞くことができました。実際にどう実践していくのか、できそうなことなどを共有できたので、とても有意義な時間になりました。
・講義の中で分からなかったり、迷ったことについて、具体的に知って考えることができた。
・とてもよかった。『学び合い』の実践について他の先生方から具体的に聞くことができた。
・いろいろな先生方のお考えを伺う事ができました。
・自分では考えをまとめきれなかったことを他の先生がまとめてあったのでお話を伺いながら自分の考えを重ねて納得できた。
・『学び合い』をすでに実践されている先生方がいらっしゃって、詳しく話が聞けて良かった。
・実践されている先生方何人かのお話をお聞きすることができ、よい刺激になりました。
・文字や声で伝えることで、今後の方法性を確認することができました。他の先生方の意見も参考になりました。

**講座のねらいの達成度**

午前中の松沢教授の「深い学びを実現する算数・数学の教材アレンジ」では、具体的に教材のアレンジを紹介していただき、どこを変えるとよいのかのポイントがはっきりしていた。受講者からも「明日使えるものばかりで教材研究のやる気になった」など、今後の活用への意欲がでたのではないかと思われる。

午後の西川教授の、さまざまな『主体的・対話的で深い学びの授業実践』では、実践の部分が少なく、「主体的・対話的で深い学び」の必要性の講義が主であった。「子どもたちの未来を見据えた指導の大切さを感じた。」とのふりかえりがあり、今後の教育について考えてもらえる内容であった。受講者からは「実際どうすればいいのか…」という意見も出ていた。

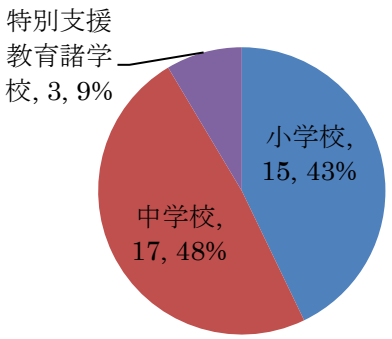
開講、閉講行事を除くすべてが、大学のスタッフで行われたが、パッケージとしてはほぼ完成していると思われる。大学の講師陣は 90 分に慣れているので、これをうまく生かしたタイムテーブルを設定するのは質、運営ともに効果があると感じた。また、演習（リフレクション）が講座内容の理解を深めるのに有効であると感じた。（受講者からも多数意見があった。）

以上のことから、講座のねらいは概ね達成できていると判断する。

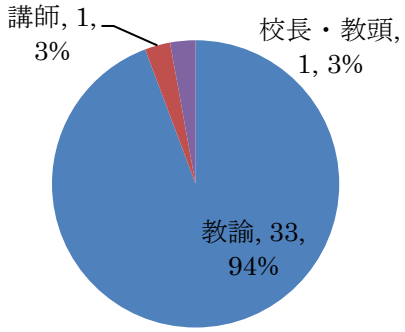
## 第５回　８月27日（月）

| 上越教育大学教職大学院　連携講座 | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講座番号･講座名 | | | | | | | | 実施日 | ねらい，連絡等 |
| 注目動向 | 3-8-01-05<br>特別の教科　道徳の授業づくり<br>～道徳の今とこれから～ | | | | | | | 9月20日（木） | 講義　「教科化で変わったこと・変わらないこと」<br>講師　上越教育大学上廣道徳教育アカデミー所長<br>上越教育大学教職大学院教授　早川 裕隆<br>講師　上越教育大学上廣道徳教育アカデミー特任教授　小宮 健<br>本講座は，３つのテーマに対して２人の講師で実施いたします。<br>「道徳の時間」が「特別の教科　道徳(道徳科)」として教科化されます。教科化の背景には，義務教育として，全ての学校で，全ての先生が同じ様に，子どもたちと充実した道徳の授業を展開する願いがあります。<br>そのため，<br>①教科化で変わったこと・変わらないこと（小宮）<br>②道徳授業づくりで大切なこと（評価を含む）（早川）<br>③道徳授業づくりの実際ー体験的な活動を中心にー(小宮山・早川)<br>の３つの内容について，受講者の先生方の不安や疑問に応えながら，具体的な授業実践につながる授業力の向上について学びます。 |
| | 地域社会と連携･協働 | 目標実現に向け，柔軟に対応 | 「教育のプロ」としての高度な知識や技能 | | | | | | |
| | | | 学習指導 | 生徒指導 | 現代的な諸課題 | | | | |
| | | | E1 E2 E3 | | | | | | |
| | 基礎形成　伸長　充実　次世代育成 | | 希望 | 幼 小 中 高 特 専 | 義初 | 高初 | 義キⅡ | 高キⅡ | |
| | [redacted] | | ○ | 20名 | | | | | ・持ち物　なし |

学校種




受講者の職能




**受講者の感想**

**「教科化で変わったこと・変わらないこと」特任教授　小宮　健**

- 自分とかかわらせて考えたり、多様な考え方を知って、自分の考えを深めていくように授業を考えていくことが大切だと思いました。
- 今後授業を考える上での方向性が分かりやすく明確に示されていました。親切を元にした例が分かりやすかったです。
- 自分がロールプレイをしなくても、見るだけでも感じることがあると思いました。
- 「考え、議論する道徳」というのが具体的に見えてきた。
- 自分を見つめる中で、自分事で考えるのは自然に子どもの中からやってくるのがよいというお話が心に残りました。
- 道徳の目標についてよくわかった。
- 授業ねらいを明確にすべきことを改めて受け止めた。
- 考え、議論する道徳・・・難しいことですが、早速明日からの道徳の授業に活かしていきたいです。
- 教科化といっても変わらないことが大半だと分かり、少し安心しました。

**「道徳授業づくりで大切なこと（評価を含む）」教授　早川　裕隆（上廣道徳アカデミー所長）**

- 狙いを具体的にすることで評価や発問、指導方法を明確にすることはできるが、そのねらいを設定する難しさも感じました。
- 知っているふり、知っているつもりではなく、本質的に知ることの大切さについて考えさせられました。他教科においても重要な視点だと思います。
- 「考え、議論する道徳」とするようにと言われてきたが、それがどういう事なのか分かった気がしました。自分の考えを深めたりより明確にできるような授業を仕組んでいきたい。
- その教材でなければ達成できないねらいをとらえるには、教材をよく読み込むことが大切だと感じた。
- ねらいの記述をもっと教材に寄せて考えていった方がよいという事が分かりました。

・具体的なめあてや、評価について少しわかった気がする。
・子どもの実態に即した具体的なねらい、評価のあり方について理解が進んだ。
・一番悩んでいたことが評価についてだったので、具体的に説明いただいてわかりやすかったです。
・評価の具体を丁寧に解説していただいたのが、とても分かりやすかった。

**演習「道徳授業づくりの実際　―小学校を中心に―　」特任教授　小宮　健**

・題材に合わせてより具体的なねらいを設定していくことが大切だと感じた。
・多面的、多角的に物事を考えるというところで二羽のことりの模擬授業で多くの意見を聞く中で、自分にはない考え方に出会い、様々な視点から考えられた。
・先生方の多様な考えに触れることができ、子どももそういう実感がもてるとよいと思った。
・動作化は思いが深まるという事が分かりました。子どもの発言の取り上げ方が分かりました。
・子どもが他の意見から自分の考えていく様子が実際の子どもの役になって考えてみることで少し感じることができた。
・役割演技の実際を通して、配慮したい点や具体的な子どもの反応について考えることができた。
・今まで役割演技を取り入れたことはありませんでしたが、時々取り入れたいと思いました。一方で中学生がどこまで本気でできるだろうという思いも残りました。
・ロールプレイングをすることで、他者の立場に立つことや考えの共有化を図りやすいという事が分かった。

**「道徳授業づくりで大切なこと（評価を含む）」教授　早川　裕隆（上廣道徳アカデミー所長）**

・役割演技の際の留意点について詳しく分かった。
・いつもは授業をする側ですが、今日は授業を受ける側で、1 時間ずっと引き付けられていた。その中で私はいつの間にかおばあちゃんの側に寄り添っていたことに気づき話の中に入り込んでいたのだと思った。
・授業が進んでいけばいくほど、教材の価値が見えてきた。
・自然と発言に思いがのってくるというか、投影してくるということが分かりました。
・中心発問までの掘り下げ方、役割演技までのもっていき方など、今までやったことのない手法を見せていただき、勉強になった。
・自分を重ねて授業に参加することができた。
・発問から演者を選ぶ技術、すごいなあと感じました。
・中学校所属なので、模擬授業を見ることができてとてもよかった。非常にわかりやすかった。

**講座のねらいの達成度**

道徳の教科化にあたり「何が変わり」「何が変わらないか」という点について、教科化の理念のレベルから丁寧に説明いただいた。教科書の支給、要録、通知表との関係、「道徳科」と「道徳教育」の違いなど制度上の観点、また、授業を行う際のねらいの明確さの重要性、授業を行ったことによる子どもの変容の内容こそが道徳科の評価になりうる点など、教科化のポイントと授業運営のポイントを明確に示していただいた。

午後の演習では、受講者が児童・生徒に、講師が授業者となり模擬授業が行われた。道徳という内容の性質上重くなる傾向ではあるが、講師の発問、それに対する児童・生徒の立場になった受講者の応答はまさに「考え、議論する道徳」の授業の実演であったと感じた。

授業運営のプロセスの組み方や、発問のしかたは参考となる点が多かったと思われる。

早川教授の演習では授業者も受講者の中から選ばれ実施された。指導案は教授のものを使い教授が補助に入った。受講者への発問に対する発問から、ロールプレイの演技者をどのように選定していくのかという一番の悩みどころに対する解決策を示すなど、現場での授業運営に非常に参考となるものであろうと感じた。

講義と演習を同じ講師が担当することで、内容的な整合性も高くなったと思われる。

特に演習にあっては、発言を求められる機会が多かったことから、その取り組みが真剣さを増していたように感じられた。またその発言内容も、真剣さが伝わってくる内容であった。

以上のことから、講座のねらいは概ね達成できていると判断する。

道徳の教科化により、評価が課題となってくる。また、先に記載した道徳教育との違いや、特別活動との違いを明確に理解しておく必要があると感じた。また、全員がロールプレイをしなくても授業の目的を達成できる点などは授業する際にも参考になると思われるが、こういった点をどのように伝えていくのかという点が今後の課題となるであろう。

先方の事情が許すのであれば、次年度も同一内容で開講することを検討したい。

② 拡散編研修講座

○　研修の背景やねらい

散編研修とは、理論編研修を録画しておき、その中から 10 分間程度の理論編内容を抜き出し、ビデオ化した映像と理論編研修で実施した演習や学習カード等を用いて、受講者が現任校で実施するミニ講座のことである。

拡散編研修は、受講者の都合に合わせて実施しているため、その期間も人数も会場も不定期で行うことができ、参加者が空いた時間で個人的都合に合わせて実施するスタイルもあれば、学校で一堂に会してビデオを視聴し、受講者が講師となって研修を実施するスタイルもある。

○　対象、人数、期間、会場、日程、講師等、各研修の内容など

報告書を返却してきた学校等は、以下の通りである。講師は、実施校の教諭であり、実践編研修を受講した受講生である。なお、DVD の配付は、対象者が同一の学校の場合は、重複して配付しているため、対象者数と学校数が一致していない。

| | 講座名 | 開催 | 担当 | DVD 配付関係 | | 拡散編研修 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 受講者数 | 校数 | 実施校 | 実施数 |
| 1 | 学力向上のための授業づくり・学級づくり<br>～協同性を高める学級を目指そう～ | 6/22<br>(金) | 大島<br>赤坂 | 31<br>／<br>31 | 30 | 佐久市立東小学校<br>諏訪市立中州小学校<br>塩尻市立広丘小学校<br>上田市立丸子北小学校<br>松本市立波田小学校 | 7<br>4<br>5<br>13<br>9 |
| 2 | ICT が苦手な人のための初歩の初歩講座<br>～iPad1 台で授業が変わる～ | 7/27<br>(金) | 榊原<br>水落 | 41<br>／<br>41 | 38 | 伊那市立手良小学校<br>諏訪市立中州小学校<br>箕輪町立箕輪西小学校 | 9<br>4<br>2 |
| 3 | 幼・保・小・中・高の連携教育<br>～接続を意識したカリキュラムで思考力を養う～ | 8/7<br>(火) | 木村<br>片桐 | 9<br>／<br>9 | 9 | 阿智村立浪合小学校<br>静岡県立駿河総合高校 | 10<br>1 |
| 4 | 主体的・対話的で深い学びの授業実践<br>～未来と深い学び～ | 8/27<br>(月) | 松沢<br>西川 | 40<br>／<br>40 | 39 | 南牧村立南牧南小学校<br>大町岳陽高校<br>軽井沢町立軽井沢中学校 | 11<br>13<br>4 |
| 5 | 特別の教科道徳の授業づくり<br>～道徳の今とこれから～ | 9/20<br>(木) | 早川<br>小宮 | 35<br>／<br>35 | 34 | 飯島町立飯島中学校 | 1 |
| | | | 合計 | 312 | 150 | 14 校 | 93 |

○研修の評価方法、評価結果

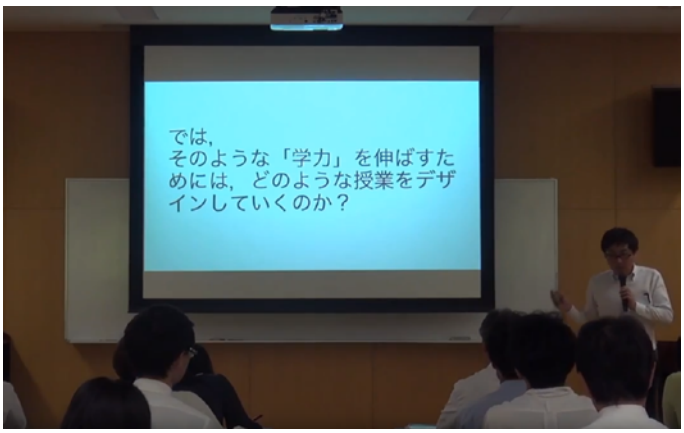
実際に拡散編研修を実施する情報を得て、学校へ出向き、その状況を調査した。調査校は延べ 2 校である。次頁より報告する。

拡散編研修の具体的な感想など

○　開催日：平成 30 年９月５日（水）
○　元となる理論編研修の講座名：明日から使える簡単 ICT 活用術
○　拡散編研修の元となる映像
（１）ねらい
ICT 活用に苦手意識を抱える教員を対象に、拡散編研修の映像では、ICT 活用の基礎基本となる講座内容を中心に編集しており、その映像を用いて研修担当者が拡散編研修の参加者に対して短時間で効率的に ICT 活用の知識や技能を伝達できるようにする。
（２）内容
・教員に求められる ICT 活用指導力について
・ICT 機器の名称や役割等について
・実物投影機を用いた授業デザインについて
・タブレット型端末のカメラ機能の活用法について
○　拡散編研修の展開案（20 分）
①DVD に収録された拡散編研修用ワークシートを印刷・配布する（1 分）
②DVD を視聴する。分かりづらい部分は、一時停止し、研修担当者が補足説明する（10 分）
③視聴後、参加者はワークシートに取り組み、研修担当者が内容を解説する（6 分）
④参加者同士の振り返り（3 分）
○　拡散編研修実施
（１）実施校名
長野県伊那市立手良小学校
（２）受講人数
9 名
（３）実施の展開
上記の「拡散編研修の展開案」を基に、放課後に全職員で研修会を開催し、研修担当者が講師を務める形式で実施した。
（４）内容
まず、研修担当者が長野県教育センターで実施された講座に参加した感想を述べた。その後、拡散編研修用の DVD を参加者全員で視聴した。内容的に難しい部分や補足が必要な箇所で研修担当者が一時停止して解説を入れながら進めていた。途中でワークシートを実施する時間をとり、続いて研修担当者が解説していた。研修担当者は参加者の質問にも適切に答えていた。講座の内容は ICT 活用の初歩的なものであったが、参加者からは初めて知る内容も多かったという感想を聞くことができた。
（５）参観しての講師の感想
拡散編研修の様子を参観し、主に感じた点は次の二点である。一点目は、参加者が短時間で講座の中心部分を習得できた点である。配布した DVD は 90 分の講座の中心部分を切り出し、約 10 分の映像に編集されているため、短時間で結論のみを学ぶことができる。もちろん編集した映像だけでは伝わらない部分は多いため、不足する情報はセンター研修に参加した研修担当者がその解説役を上手く担っていた。二点目は研修担当者の活躍と成長である。今回の研修担当者は採用 3 年目の２０代の若手教員が務めていた。研修担当者は勤務校での拡散編研修の講師を務めるにあたり、センターで受けた講座自体に前向きに取り組み、しっかりと習得したことを伝えようとしていた。研修を参観し、拡散編研修の有効性を随所に感じることができた。今回の拡散編研修に要した時間は 20 分程度であり、時間対効果は高いと言える内容だと感じた。

開催日：平成 30 年 11 月 7 日（水）

1.元となる理論編研修の講座名：学力向上のための授業デザインと分析




（1）ねらい

①これからの時代を生きる子どもたちにとって必要な「学力」とは何かを考える。

②①で考えた「学力」をつけるための授業デザインについて考える。

（2）内容

・「学力」とは何か？

・これからの日本の社会構成について

・これからの時代を生きる子どもたちにとって必要な「学力」とは？

・子どもたちにとって必要な「学力」をつけるための授業デザインとは？

2.拡散編研修実施

（1）実施校名　伊那市立手良小学校

（2）受講人数　10 名

（3）実施の展開

・子どもたちが社会に出る 15 年後、子どもたちにとって必要な力とは？

・グループ討議

・子どもたちの「学力」をつける教師の役割とは何か？

（4）内容

講座内容のポイントを掴み、拡散編研修で校内の先生方に自作の資料を使いながら講座内容を端的に伝えていた。拡散編研修実施者は、自分が講座に参加して心に残ったことや、実際に自分の実践に生かしたことなどを加え情報提供していた。つまり、抽象化された講座内容が生きた実践として、校内の先生方に拡散された。

拡散編研修実施者は、講座を受講することで、自分の考え方の枠組や日々の実践を内省し、新たな気付きを生み、それを自分の実践で試行し、日々の実践に取り組むという「ダブル・ループ学習」が行われていた。そして更に、この拡散編研修実施者になることで、その自身に起きた省察自体をメタ認知している。

この拡散編研修は、講座に参加していない先生方へ講座の情報が拡散されることの他に、拡散編研修実施者自身の省察の場となっていたということが示された研修であった。

○　研修実施上の課題

拡散編研修は、DVD を用いて理論編研修を受講した教諭が講師となり、所属校の実態や状況に即して計画し実施する研修のことである。この主催者である講師は、理論編で得た知識を教えるという行為を通して知識理解を自らのものにすることができる。また、受講者は実際の講座の核となる部分を見て、聞いて学ぶことができる。

欠点として DVD の映像は、90 分にわたる講演から、ダイジェストで１０～１５分だけを抜き出したことで、分かりづらさがあると考える。ただし、録画映像であることから、何度も聞きなおしたり、周りの教員と対話をしたりする等で、わからない内容を解消する方法もある。講座の形態により欠点を解消できない場合がある。

この拡散編研修は、DVD を用いる研修であることから、DVD を校内やサークルで貸し出し視聴したという話も聞くが、今回調査用紙を返却する手間があり返却できなかったという事を聞いてはいる。

③　実践編研修

○開催日：平成 30 年 9 月 20 日（水）
○ねらい：長野講座に参加した教員の学校を訪問し、講座で学んだことを生かした授業実践と、講師による実践編研修を通して、学校に整備された ICT 機器の利活用を推進し、講座の内容を広く学校内で普及することを目的とする。
○対象(学校名、サークル名)：伊那市立手良小学校
○講師名：榊原　範久
○研修内容
・研修項目：ICT が苦手な人のための初歩の初歩講座
・研修時間：11:30～16:30
・参加者数：20 名
・内容：研修の形態、使用器材、進め方の留意点等：４時間目に長野講座に参加した教員の総合的な学習の時間の授業を参観した。その後、授業リフレクションを行った。放課後に全職員を対象に研修の時間を設け、長野講座に参加した教員が拡散編研修用 DVD を用いて講座の内容をダイジェスト版で研修を行った。その後に榊原准教授が実践編研修を行った。
○実施上の留意事項：特になし
○成果と課題：長野講座に参加した教員は20代の若手教員で、ICT に関わる研修で得た知識を生かして授業を行っていた。子ども達はタブレット型端末で調べた事柄を、スクリーンショット機能やマークアップ機能を使用してポートフォリオ形式で保存してまとめに使用していた。放課後の実践編研修では、ICT 活用に関わる情報について講座を通して共有し、参加者が一人一台のタブレットを活用して、実践での活用方法を体験する演習を行った。

○開催日：平成 30 年 11 月 7 日（水）
○ねらい：長野講座に参加した教員の学校を訪問し、講座で学んだことを生かした授業実践と、講師による実践編研修を通して、講座の内容を広く学校内で普及することを目的とする。
○対象(学校名、サークル名)：伊那市立手良小学校
○講師名：大島　崇行
○研修内容
・研修項目：学力向上のための授業デザインと分析
・研修時間：8:30～16:30
・参加者数：20 名
・内容：研修の形態、使用器材、進め方の留意点等：１時間目～4 時間目に全校の授業を参観した。その後、授業リフレクションを行った。放課後に全職員を対象に研修の時間を設け、長野講座に参加した教員が拡散編研修用 DVD を用いて講座の内容をダイジェスト版で研修を行った。その後に大島准教授が実践編研修を行った。
○実施上の留意事項：特になし
○成果と課題：長野講座に参加した教員は 20 代の若手教員で、「学力向上のための授業デザインと分析」研修で得た知識を生かして授業を行っていた。子ども達は学習課題の達成に向け、対話を重ねながらお互いの解法を検討し合っていた。放課後の実践編研修では、学習者が主体的に活動に取り組む授業デザインが求められる背景の講義と参加者自身の授業実践の課題を振り返り、明日からの授業を構築するための演習を行った。

○開催日：平成 30 年 11 月７日（水）
○ねらい：昨年度本学教職大学院を修了した現職教員の研究授業とそれに伴う全体講話を通して、主体的・対話的で深い学びについて、研究授業を通して理解を深め、明日からの授業の方向性を探ることを目的とする。
○対象(学校名、サークル名)：福島県福島市立清水小学校
○講師名：水落　芳明　阿部　隆幸
○研修内容
・研修項目：主体的・対話的で深い学びの授業実践
・研修時間：14:00～14:45(授業参観)、15:00～16:00(授業参観者に向けた講話)
・参加者数：２１人
・内容：研修の形態、使用器材、進め方の留意点等：小５算数「割合」の授業を参観した。２つの田の面積ととれた米を比較し「米のとれ具合を比べるにはどうすればよいか、みんなにわかりやすく説明できる」というめあてのもと、子どもたちの主体的な相互交流の時間を多く確保しめあての達成に迫る授業であった。この授業をもとに、Society5.0 や AI 技術の発展等をもとに、学習者主体の授業がますます求められるので教員の意識変革等が必要になること等を伝えてきた。
○実施上の留意事項：特になし
○成果と課題： 修了して着任した学校で、本学で学んできたことを伸び伸びと発揮すると同時に、勤務校の同僚に学びの内容を広げている様子がわかった。私たちが彼の行っていることの後押しをしたことで学校に主体的・対話的で深い学びの授業実践が広がる兆しが見られる。課題としては、一人一人の悩み疑問に丁寧に答える時間がなかったことである。

○開催日：平成 30 年 11 月 30 日（金）
○ねらい：主体的・対話的で深い学びが発生する授業を目指し、授業参観後、授業者と共に教科の見方・考え方を授業デザイン作りに活かす視点を得ることを目的とする。
○対象(学校名、サークル名)：静岡県立駿河総合高等学校
○講師名：片桐　史裕
○研修内容
・研修項目：主体的・対話的で深い学びの授業実践
・研修時間： 8:50～10:40（授業参観）10:50～11:40（研究協議会）
11:50～12:40（授業参観）13:25～14:15（授業参観）
14:25～15:15（研究協議会）
・参加者数：７人
・内容：研修の形態、使用器材、進め方の留意点等：コミュニケーション英語Ⅰ、現代社会、社会と情報、課題研究を参観した。どの授業も学習者の興味関心、必要感を引き出すことに留意した授業であった。研究協議会では、教科特有の見方・考え方を意識した授業デザインを取り入れる方法を検討した。
○実施上の留意事項：特になし
○成果と課題：多様な人たちと折り合いをつける力を学ぶことに重きを置いた教科学習であったが、教科特有の見方・考え方を学習者に学ばせることによって学習者に必要感、興味関心を抱かせる授業デザインを作る視点を示すことができた。

○開催日：平成 30 年 12 月 6 日（木）
○ねらい：初任者の授業実践を通して、主体的・対話的で深い学びについて、授業者と共に本時の学習展開を時間経過にしたがって確認し合い、明日の授業の方向性を探ることを目的とする。
○対象(学校名、サークル名)：長野県佐久市立城山小学校
○講師名：桐生　徹
○研修内容
・研修項目：主体的・対話的で深い学びの授業実践
・研修時間：9：40～10：25(授業参観)、10：30～11：00(授業者との懇談)
・参加者数：7 人
・内容：研修の形態、使用器材、進め方の留意点等：小５算数「わり算」の授業を参観した。前時までに分数のわり算を学び、より複雑な分数のわり算の計算方法を考える場面であった。塗料が３dL あり、１$m^3$に５分の４塗れるとき、1dL あれば、どのくらいの面積が塗れるか、という課題を子どもが思考した。教師の出が多く、大概の時間を説明に費やしている傾向があり、子どもの考えを広めることについて、例を交えて研修を行った。
○実施上の留意事項：特になし
○成果と課題：初任者が 4 月から経営してきた学級のよさを認め、その上での授業としての課題を伝えたが、学校長の初任者を見つめる的確な指導も引き出したことで、授業者は明日に対する希望をもって歩むことができたことが成果と考える。課題としては、学校に置かれた初任者の状況把握が出来なかった為、その点の助言ができなかったことにある。

○開催日：平成 30 年 12 月 7 日（金）
○ねらい：教職 10 年目の教員の学級に 1 日訪問して授業運営や学級経営の様子を参観する。その後、教師の指導や振る舞い、子どもたちの様子を振り返ることで、 学力向上のための授業づくり・学級づくりはどうあるべきか探ることを目的とする。
○対象(学校名、サークル名)：宮城県仙台市立田子小学校
○講師名：阿部　隆幸
○研修内容
・研修項目：学力向上のための授業づくり・学級づくり
・研修時間：8:15～14:30（授業参観、学級訪問）　14:30～16:00（授業者との懇談）
・参加者数：５人
・内容：研修の形態、使用器材、進め方の留意点等：授業と同時にそれを下支えする学級経営に関しても観察して助言をもらいたいという要望のもと、１つの学級の朝から帰りまでの様子と授業（国語、学級活動、道徳、算数、社会）を参観した。子どもたちが下校した後、子どもたちの生活の様子や授業の進め方についてよりよいあり方、考え方について対話を通して省察を行った。
○実施上の留意事項：特になし
○成果と課題： 教職 10 年目のキャリアを十分に生かしながら、子どもたちの安心、安全を意識した授業や学級経営を進めており、これらの内容を実際に見た授業や学級の様子を通して確認しあうと同時に勇気づけを行った。この様子がそのまま学力向上へ結びついていくであろうことを小テストの結果やワークシートの内容から確認した。課題としては、1 日参観し実りが多かったものの全体を見過ぎて、焦点化した観察ができていたか不安が残る点である。

○開催日：平成 30 年 12 月 10 日（月）
○ねらい：昨年度本学教職大学院を修了した現職教員の授業参観とその後の懇談を通して、教職大学院で学んだ理論を実践でどのように生かしているか情報交換を行い、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の方向性を探ることを目的とする。
○対象(学校名、サークル名)：豊見城市立伊良波中学校
○講師名：桐生　徹、水落　芳明、阿部　隆幸、榊原　範久
○研修内容
・研修項目：主体的・対話的で深い学びの授業実践
・研修時間：14:50～16:30
・参加者数：５名
・内容：研修の形態、使用器材、進め方の留意点等：中学 3 年理科の授業を参観した。理科室に電子黒板とデジタル教科書、実物投影機などが設置され充実した学習環境の中で授業実践が行われていた。子ども達の学習への取り組みの様子や教師の学習を支援する様子を観察し、その内容を元に授業後に懇談を行なった。
○実施上の留意事項：特になし
○成果と課題：修了後、派遣元の学校に再び着任し、教職大学院で学んだことを現場で具現化しようと努める様子が見られた。授業では、ICT 機器を有効に活用し、学習デザインは学び合いを中心とした主体的・対話的で深い学びの実現を目指そうとする様子がうかがえた。校長先生を交えた懇談では、本学で学んだ理論を現場で実践してくれていると活躍の様子を拝聴した。授業参観と懇談を通じて修了生に良い評価として返し、フォローアップの機会となった。

○開催日：平成 30 年 12 月 10 日（月）
○ねらい：主体的・対話的で深い学びの授業を日常的に進めるための情報を交換しあう教員の自主サークルの会に参加し、日常の授業実践の様子を聞いて勇気づけを行ったり、悩みや課題を聞いて一緒に解決方法を考えたりして明日からの授業実践のヒントに結びつくようにする。
○対象(学校名、サークル名)：『学び合い』沖縄の会
○講師名：桐生徹　水落　芳明　榊原　範久　阿部　隆幸
○研修内容
・研修項目：毎時間の振り返り（リフレクション）
・研修時間：19:00～21:00
・参加者数：７人
・内容：研修の形態、使用器材、進め方の留意点等：参加した現場の教員が偶然であったが、本学大学院、教職大学院を修了した方々だったため、フォローアップを兼ねた形での話し合いとなった。沖縄だからこその特徴や、現場に戻ってから大学の学びと現場の学びを融合させていく楽しみや苦労を伺い、いずれの参加者も前向きに取り組んでいる様子を称賛し、励ます言葉かけを行った。
○実施上の留意事項：特になし
○成果と課題：参加者がそれぞれに積極的でがんばっている方ばかりだったため、こちらもコミュニケーションがとりやすく話の内容もとても前向きで明るい言葉かけをすることができた。課題としては、事前にもう少し沖縄の実状を調べたり、聞いたりした上で会に参加すれば、より即時的で具体的な子どもへの対応の方法や授業の方法を話し合えたと考える。

○開催日：平成 30 年 12 月 11 日（火）
○ねらい：授業実践を通して、主体的・対話的で深い学びについて、授業者と共に本時の学習展開を時間経過にしたがって確認し合い、明日の授業の方向性を探ることを目的とする。
○対象(学校名、サークル名)：沖縄県那覇市立長嶺中学校
○講師名：桐生　徹、水落　芳明、阿部　隆幸、榊原　範久
○研修内容
・研修項目：主体的・対話的で深い学びの授業実践
・研修時間：9：30～10：20(授業参観)、10：30～11：30(参観者との懇談)
・参加者数：8 人
・内容：研修の形態、使用器材、進め方の留意点等：中 3 理科「天文」の授業を参観した。当授業は、校内での公開授業を兼ねていることから、多くの参観者が参観に訪れていた。電子黒板の図を利用することで、子どもの空間のイメージを補う授業展開を図っていた。主体的・対話的で深い学びとなるように、授業者の意見を聞いた上での授業後の検討会で話をした。
○実施上の留意事項：特になし
○成果と課題：授業者は、教師歴 20 年を超えるベテランでありながら、新しい ICT を的確に使用し、子どもの考えを引き出しながら授業を行うことができている教員であった。授業者の思いを大切にしながら、授業内容や理科の教科経営等について新しい学習指導要領に沿う内容を提示した。参観者の一人である上原校長と共に学校内での授業者の置かれたポストを確認し、今後の教師としての資質向上についての内容も言及することができた。

○研修実施上の課題

日本全国の学校へ講師が出向き、授業を参観したり、校内研修を参観したりすることを通して、学校の実情を把握し、学校の要請に基づき、様々な形態で実践編研修を実施した。

この研修は、理論編研修の内容を受講者自らの勤務校に適合させるためには、誰にも相談できるわけではなく自らが、勤務校の実態や状況に適合させる必要がある。それを解消するために実施している。拡散編研修と異なり、理論編研修の講師自らが学校に出向くことから、受講者が講座内容を学校の実情や状況に適合させる必要はない。

しかし、この実践編研修は予想通り必要な経費が膨大であり、今回実験的に実施したが、常にできる内容かといえば否である。

ただし、先にも述べたとおり学校の実情に合わせるように学校の参観を実施した上で、要望に添うことができる、これが最大の利点である。

## ３　連携による研修についての考察

**（連携を推進・維持するための要点、連携により得られる利点、今後の課題等）**

長野県総合教育センターで実施した理論編研修、DVDを作成し理論編研修を受講した教諭が勤務校の実情や実態に合わせて講師となり実施した拡散編研修、理論編研修の講師が受講者などの要請で学校等へ赴き、学校の実情や実態に合わせて実施する実践編研修。理論編研修を中心に実践編研修と拡散編研修はつながっている。

長野県教育委員会との連携による研修では、長野県総合教育センターでの理論編研修での受講者の満足度は高く、１講座を除いて募集人員の200％野応募者となる講座となっている。しかも、2014年から五年間テーマを少しずつ変えながら、長野県の教育に対する喫緊の課題に対応してきたことが、連携を推進・維持するための最大の要因と考える。

連携で得られた利点として、長野県に特徴的な課題を得ることができた。特に、山間地における小規模校の実情から同教科や先導する講師の不足があげられる。実践編研修で訪れた山間地小規模校では、初任者が先輩教員から手ほどきを受けながら小学生とともに歩んでいる姿は印象的であった。より新たな視点を得るために理論編研修を受講しているのであるが、さらに勤務校に合わせた講座を実施できたことに喜びがあると申していた。また、この学校では、小規模校を生かして、実践編研修を校内研修に位置づけ、学校の実態を把握できるようにほぼ1日の日程を作成し、講師に学校の実態をしっかりと把握できる時間を与えてくれた。学校での子どもとのふれあいや真摯な姿勢で臨む教職員の姿から学校の方向性の正しさを実践編研修の中で触れられたことは大きな成果と考えている。

今後は、費用対効果という点で難しい問題はあるが、できる限りこの三つの研修を続けることにあると考える。

## ４　その他

［キーワード］

教員研修　DVD 作成　拡散編研修　理論編研修　実践編研修

［人数規模］　Ｃ．２１～５０名

補足事項(理論編研修は、Ｃの人数が午前と午後に参加している。実践編研修は、学校や集会の規模等により様々な人数となるが、Ｂ．１１～２０名である。また、拡散編研修も把握できる中では、大旨Ａ．１０名未満　が一番多いようである。)

［研修日数(回数)］　Ａ．１日以内（２～３回）

補足事項（理論編研修は、1 日に 2 講座実施していることから 2 回研修を受けている。よって、Ａの１日に１回となっていない。）

【担当者連絡先】

**●実施者**　※申請する大学名又は教育委員会名を記載すること

| | | |
|---|---|---|
| 実施者名 | | 上越教育大学学校教育研究科教育実践高度化専攻 |
| 所在地 | | 〒943-8512<br>新潟県上越市山屋敷町１番地 |
| 事務担当者 | 所属・職名 | 研究連携課・課長 |
| | 氏名（ふりがな） | 渡邊　茂康（わたなべ　しげやす） |
| | 事務連絡等送付先 | 〒943-8512　新潟県上越市山屋敷町１番地 |
| | TEL/FAX | 025-521-3665/025-521-3621 |
| | E-mail | chiiki@juen.ac.jp |

**●連携機関**　※共同で実施する機関名を記載すること

| | | |
|---|---|---|
| 連携機関名 | | 長野県教育委員会 |
| 所在地 | | 〒399-0711<br>長野県塩尻市大字片丘南唐沢 6342-4 |
| 事務担当者 | 所属・職名 | 長野県総合教育センター・所長 |
| | 氏名（ふりがな） | 西條　浩章（にしじょう　ひろあき） |
| | 事務連絡等送付先 | 〒399-0711　長野県塩尻市片丘南唐沢 6342-4 |
| | TEL/FAX | 0263-53-8800 |
| | E-mail | nishijo-hiroaki-r@pref.nagano.lg.jp |